

第41回 一日舞踊大学講座2023ダンスと教育

現代舞踊協会研究企画部では、未来の文化を担う次世代の若者に視点を絞ります

自然に帰る

深く呼吸して、心の眼を開いてみよう。
ケイタケイと共に、感じ、動く、ワークショップ。
アーティスト ケイタケイの
肉体、精神のミステリーを解き明かすトーク。
ケイタケイを知る、貴重な一日です。

身体の時

2023.2/12 [日]

10時00分～17時00分 (9時20分より受付)

芸能花伝舎創造スペース

主催：文化庁、一般社団法人現代舞踊協会

企画・制作：一般社団法人現代舞踊協会研究企画部

芸術監督：加藤みや子 馬場ひかり

制作総括：藤井香 制作補佐：細川麻実子



文化庁委託事業
「令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」
現代舞踊新進芸術家育成Project1

ケイタケイと共有する

人間は、太古の時代から踊ってきた。
踊るといふ行為は、太陽や月、自然と同じくらい、尊く、美しい。
ケイタケイの作品をみると、ふと、そんなことを思ってしまう。
人生が、自然との関わりの中で描かれているからである。
一つの旅のように。



東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎 A棟2階
◎東京メトロ丸の内線「西新宿」駅より徒歩6分
◎都営大江戸線「都庁前」駅より徒歩7分
◎JR「新宿」駅より徒歩15分

当協会は、新型コロナ感染防止対策をできる限り施して開催いたします。
検温、マスクの着用など、ご協力をお願いします。体調の悪い方は、参加をご遠慮ください。

1969年 LIGHT 1にてニューヨークデビュー、70～80年代には、ニューヨークを代表する舞踊家の一人として、トリシャ・ブラウン、メルディス・モンク等と並べて評される存在となり、当時のポストモダン、ジャドソン・チャーチ派が、実験から作品へ移る成熟期のアメリカのダンスシーンに独自の痕跡を残し、日本人として、しっかりと立ち位置を作った、ケイタケイ。日本に戻ってからも、精力的に独自の活動を続けている。

一見、日常の動きを取り入れた、自然回帰とも見えるケイの作品は、決して、単なるリアリズムでも自然主義でもない。原始的な素朴な日常の動きは、知的に様式化され、儀式のようでもあり、狂気さえ垣間見える。繰り返される動きと行為で構築されていく作品のスタイルは、ポストモダン、ミニマルズムの芸術に見られるものだが、ケイの作品には、そこに日本人の原風景が重なり、遊戯性、祭儀性を持つ。その幾重にも重なるムーブメントの襲は、人間の生の営みを炙り出し、精神の深淵に迫る。自然に神が宿るように、彼女の踊りはスピリチュアルだ。決して感情、情緒が剥き出しになることはなく、生きること、働くこと、死ぬことと同じように、〈踊る〉そして〈存在する〉。脈々と続く時間の経過と共に、ムーブメントは熱を帯び、時には、極限的な状況を作っていく。

ケイの作品には、人がいて、自然があり、愛があるから、どこか温かい。そして潔い。彼女のように、イノセントであり続けることは、容易ではない。頑固なほどに、本質的なところで生きているからだろう。小さな身体のどこに、こんなパワーがあるのかと驚くほど、彼女の心と身体は強靱で、粘り強い。自分の哲学、信念が身体を貫いていて、ムーブメントには重さがあり、かつ軽やかだ。生きるってこんなものよ、と言わんばかりに、立ち、歩き、駆け、跳び、倒れ、今生きる肉体をありのままに曝け出す。人生の達人とはこういう人のことを言うのだろう。野生動物のような感性と、子供のような純粋さで、心と肉体に向き合っている人の踊りは美しく、心を打つ。アーティスト、ケイタケイの精神、肉体、全てがミステリーである。



ケイ タケイ Kei Takei

舞踊家、振付家。ケイ・タケイ・s・ムービングアース・オリエントスフィア主宰。檜健次、藤間喜与恵、アンナ・ソコロウ、アンナ・ハルプリンに師事。1969年「LIGHT, Part 1」にてNYデビュー。現在まで53Partを創作、世界各地で公演。1978年ネザールランド・ダンス・シアター、1982年イスラエルのインバウ・カンパニーに委嘱振付。1980～1983年アメリカン・ダンス・フェスティバル講師。1979年と1985年日本招待公演（文化庁、日米交流基金招待）。「24時間LIGHT」を、1990年米国ミネアポリスを皮切りに上演。1992年帰国後、1995年東京シアターX～お台場で、1997年ベルリン、ウエルズにて。2001年イスラエル、サンフランシスコ、NY、2002年インド、2007年オランダにて公演。2008年アメリカン・ダンス・フェスティバル75周年記念にて公演。さまざまな表現者との協同作業も多い。2009年から「LIGHTシリーズ」を再開、活発に再創作、新作発表をおこなっている。2012年から全国各地の野外を中心に上演を行う「LIGHT津々浦々シリーズ」を展開。舞踊批評家協会賞、Meet The Composer賞、ニムラ舞踊賞はじめ、2012年、第29回江口隆哉賞及び江口隆哉賞に係る文部科学大臣賞を受賞。現在、能楽師岡庭善昭師に師事。



國吉和子

舞踊研究、評論家。大学非常勤講師、「やめまひの会」主宰。著書に「夢の衣裳、記憶の壺―舞踊とモダニズム」（新書館、2000）、編著「見ることの距離―ダンスの軌跡1962～1996」（市川雅道稿集（新書館、2000）、主な論考「『病める舞姫』試論―そして絶望的な憧憬」（『土方異一言葉と身体をめぐる』（京都造形芸術大学編集、角川学芸出版、2011）、「暗黒舞踏前夜―戦後日本のモダンダンスと大野一雄」（『大野一雄・舞踏と生命』、岡本章編、思潮社、2012）他。



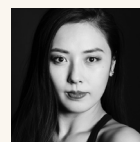
永利真弓

株式会社アンクリエイティブ代表取締役社長。日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師。5才よりダンスを始める。1980～83年アメリカにて舞台芸術を学ぶ。86年ADF東京の公演制作に就任後舞台芸術のプロデュース業務を始める。91年株式会社アンクリエイティブを創立。コンテンポラリーダンスを中心とした国内海外に於ける舞台芸術事業、国際交流事業等の企画制作を行うと共に、広告代理店などによる各種イベントの演出、制作、キャスト等を手掛けている。



加藤みや子

加藤みや子ダンススペース主宰。森嘉子、藤井公、利子に師事。仏・パニコレコンテ、伯・巡回公演（国際交流基金主催事業）、米・フェスティバル巡演等に招聘され高く評価される。83年よりアネックス山川ファクトリーを拠点に各地で五感を開くワークショップやアーティスト交流の場、HHWを開催。江口隆哉賞、ニムラ舞踊賞など受賞。現代舞踊協会常務理事。日本大学芸術学部非常勤講師。



江上万綺

幼少より井上恵美子に師事し、多くの公演に出演、全国舞踊コンクールにて上位入賞多数。日本音楽高等学校音楽科バリエーションコース、後に筑波大学体育専門学群卒業。卒業時には筑波大学学群長賞受賞。平成30年度文化庁新進芸術家海外研修員として、イギリス Trinity Laban Conservatoire にて研修を修了。帰国後、自作ソロ作品にて、令和3年度現代舞踊協会新人賞受賞。舞台の傍ら映像作品等にも出演中。

2023. 2/12 [日] 定員40名（定員になり次第締め切り）

参加費…一般 4,500円 協会員 4,000円 学生3,500円（半日参加 3,000円）

10:00～12:20 ワークショップ

「ケイタケイと共有する、自然に帰る身体の時」

講師：ケイタケイ

12:20～13:00

そこが知りたい海外研修 報告者：江上万綺（イギリス）

14:00～15:30 座談会

「Lightの軌跡を辿り、ケイタケイの舞踊の真髄を探る」

パネラー：ケイタケイ 國吉和子 永利真弓 加藤みや子

15:30～16:45 受講生によるデモンストレーション

●申込方法

現代舞踊協会

検索

Webからのお申し込みは、現代舞踊協会ホームページ内「一日舞踊大学講座」の申込フォームより送信ください。

FAX 03-5457-7732

FAXからのお申し込みは、下記申込用紙に全項目を読みやすい文字で明記の上、左記FAX番号へ送信ください。

●申込締切 2月7日（火）

●お問い合わせ（一社）現代舞踊協会事務局

〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-21-3

グレイス代官山402号 TEL.03-5457-7731

一日舞踊大学講座申込書

*ダンスプラン出演者の方は右に○をして下さい。

ダンスプラン出演者

フリガナ
氏名

所属研究所 / 舞踊団

住所 〒

(○をお付け下さい)

一般 / 協会員 / 学生・高校生 / 半日参加

TEL

FAX

E-mail

*携帯でも可ですが、諸連絡の都合上、できるだけパソコンのアドレスをご記入下さい。